

4月の技術対策（水稻）

平成19年4月1日
JAきたそらち・JA北いぶき
空知農業改良普及センター北空知支所

雪融け後は水田を乾かす努力を怠らず、表面水排水の徹底など乾土効果を発揮させる管理を心がけましょう。

また、「苗、半作」と言われるように、育苗の失敗は経済・精神的にダメージが大きいものです。家族内で育苗方法について十分話し合い、初期茎数を確保するため、ずんぐり（太くて草丈15cm以下）苗を育てることに心掛けましょう。

1 育苗箱数の確保

高整粒米・低蛋白米の安定生産のため、適正な栽植密度の確保は重要です。表1を参考に育苗箱を準備して下さい。

表1 育苗様式別の栽植密度と必要苗箱数

目標の栽植密度(株)		育苗様式	10a当り 必要苗箱数	
坪当り	m ² 当り			
77.7 (株間13cm)	23.3 (株間13cm)	成 苗	448穴	52箱
			490穴	48箱
			箱ポット	43箱
			型枠	39枠
84.2 (株間12cm)	25.3 (株間12cm)	中 苗	マット	37箱
			箱ポット	34箱
			型枠	37枠

2 適切な育苗管理

育苗管理を実施する際、軽視されがちな以下の事項について改善に努めましょう。

シルバーポリを過信（高温障害になりにくい、芽焼しづらい）しない。

温度管理を経験に頼らず、育苗ハウス内に温度計を設置する。

巻き上げハウスでは、両側に入り口を設置し、高温時は妻面なども開放し十分な換気を実施する。

自動かん水で均一に水が散布されない場面が見られるので、手でかん水することも検討する。

防風網を設置し、強風・晴天時にハウス内の十分な換気を実施する。

「ほしのゆめ」だけでなく、「ななつぼし」においても育苗後半（2.5葉期以降）の高温管理（25℃以上）による早期異常出穂に注意する。

（1）苗床の施肥

成苗ポット苗で燐酸過剰障害（第1葉の先端が褐色～濃紫色に変色する、苗が短くなり、葉色が淡くなる）の発生が散見されます。

昨年、このような症状が発生していた場合や苗床の土壌診断で燐酸が蓄積している場合は、コスト低減も兼ね、燐酸成分の少ない肥料（育苗S066）または単肥肥料で対応して下さい。

(2) 育苗管理の要点

ア 育苗初期における温度管理 (表2)

昨年は、は種後の低温により出芽に日数を要し、気苦労の絶えない年でした。ハウス内の排水を徹底し、地温を十分に確保してからは種し、適切な温度管理を徹底しましょう。

表2 育苗初期における温度管理のポイント

生育	は種～出芽揃	出芽揃～1.5葉期	
基準	昼	30～32	25 20
	夜	10 以上	10 以上
目安	初めの位置で30～32。35 以上にならない。	展開葉の先で25 に達した場合換気する。出芽揃い以降は生育にあわせ目標温度を下げる。	
管理方法	シルバーポリと透明ポリでの二重被覆と二重トンネルで適切な温度管理をする。 晴天時はハウスの肩を開け換気し、ヤケに注意する。 日没前から翌朝まで保温のため二重被覆・二重トンネルをする。	晴天時はハウスの肩や裾を開け適切な温度管理をする。 出芽揃い以降は夜間のみ二重トンネルとする。	

イ 育苗初期における水管理 (表3)

作業性の向上を目的に、成苗ポット設置前に置床のかん水を行わない生産者が見られます。水不足や低地温による出芽不良の原因となりますので中止して下さい。置床に十分なかん水をし、地温を上昇させてから、成苗ポットを設置して下さい。

表3 育苗様式別の水管理のポイント

区分	成苗		中苗	
	は種～出芽揃	出芽揃～1.5葉期	は種～出芽揃	出芽揃～1.5葉期
目安	ポットの下までかん水が十分である。	日中はポット内の土を乾かさない。	乾かない程度にかん水する。	葉先の水滴が見られなくなった時にかん水する
灌水方法	は種後のかん水は2～3回程度に分けて行う。	晴天の場合は、早朝にかん水し、ポットの下まで水を浸透させる。	は種直後は水を床土全体に浸透させる。	晴天の場合に、早朝にかん水し、床土全体まで水を浸透させる。

(3) 除草剤の使用方法

苗床のノビエ専用除草剤として「クリンチャーEW」があります。ノビエの発生を確認してから使用して下さい (表4)。

表4 クリンチャーEWの使用法 (H19 防除ガイドより)

薬剤名	対象雑草	使用時期	箱当たり使用量
クリンチャーEW	ノビエ	は種後10日～ノビエ5葉期	1000倍 18ml

YES!clean表示制度や農薬節減、特別栽培農産物の取り組みをしている場合は、事前に定められた農薬を使用して下さい。